

日本財団・PNLSC共同事業

フィリピン残留日本人2世の国籍回復支援

～日本人としてのアイデンティティーを取り戻すために～

1. 事業概要

身元未判明のフィリピン残留日本人2世を対象に、国籍回復支援(身元調査、証拠書類収集、就籍申立)及び家庭裁判所における調査官面接のための集団一時帰国を支援する。

(就籍とは、潜在的に日本国籍を有していながら戸籍に記載されない人が、家庭裁判所の許可を得て新たに戸籍を作成することを言う。なお、中国残留孤児はこの方法で約1300人が日本国籍を取得している。)

その多くは、父が日本人だと証明する証拠書類がほとんどないため、就籍による救済が困難な状況にある。

さらに高齢により死亡する方も増えている。

こうしたなか、今後一刻も早く彼らの日本国籍を回復させるためには、中国残留孤児と同様に、就籍申立ての重要証拠となる「孤児名簿」を作成し、裁判所に提出していくことが急務である。

2. 事業背景

19世紀末頃から太平洋戦争終結までの間、約3万人の日本人がフィリピンへ移住、その多くは現地でフィリピン人と結婚し、平穏で豊かな生活を営んでいた。しかし、戦争により父親を亡くしたり、敗戦後日本へ強制送還されたりするなどして家族が崩壊、多くの妻やその子供(フィリピン残留日本人2世)が現地にとり残された。さらに戦後は反日感情による差別がひどく、出生証明書などを破棄して日本人であることを隠し、極貧の中、戦後を生き延びてきた。

こうした中、本事業では戦中戦後の混乱で身元を証明する書類が限られているフィリピン残留日本人2世の日本人としてのアイデンティティーを回復するため、家庭裁判所への就籍申立による支援を2006年に開始。その結果、これまで63名の国籍を回復させることができた。しかしながら、出自が判明できない残留日本人は、現在就籍申立中の83件を含め、未だ200名程度存在する。

孤児名簿について

フィリピン残留日本人2世の多くは、自らが日本人であることは確かであるにも関わらず、それを証明する資料が乏しい。本事業では、就籍許可申立の証拠のため裁判所に提出する日比両国による認証をととしての「フィリピン残留日本人2世名簿」を作成する。完成した約300名の名簿は、フィリピン外務省による残留日本人2世である認証を得た後、日本外務省に提出され、家庭裁判所の公開請求に応じて提出、審判の決定のための重要な資料として用いられる。本名簿の作成にあたっては、外部有識者の専門的知識を取り入れ、検討を行う諮問機関として、「フィリピン残留日本人2世名簿作成有識者会議」を設置し、その提言を基礎内容としている。

3. 身元未判明残留2世状況(2011年7月15日時点)

フィリピン残留日本人2世は推定3000名いるといわれ、うち890名は身元未判明である。内訳は以下の通り

就籍による国籍取得(2006年～現在)	63名
就籍による救済対象(申立中83件、新規申立)	約200名
対象外(国籍取得を希望しない、海外在住など)	約120名
死亡ケース	約500名
身元未判明者総数	約900名

日本財団・PNLSC共同事業 2011年集団一時帰国 日程表
2011年8月4日(木)～10日(水)

- ①伊是名組：奥間（プロフィールNo. 2）
 ②沖縄本島組：アラカキ（No. 1），トヤマ（No. 3），クロサワ（No. 6），マツナガ（No. 7）
 ③熊本組：合志（No. 4），坂本（No. 5）

	月 日	スケジュール		
		①伊是名島組	②沖縄本島組	③熊本組
1日目	8/4 (木)	08:00 マニラ発 香港経由(UO658便) →→15:20那覇空港着 16:00～ 記者会見 (空港内)		
2日目	8/5 (金)	10:00～ 与世田兼稔県副知事(予定) 表敬訪問		
		10:45～ 沖縄県議会 表敬訪問		
		伊是名島へ移動→ 運天発15時30分→ 伊是名島16:25着 父子対面(奥間守さん宅)	首里城など見学	13:20那覇空港→ <ANA3728便> 14:45熊本空港着 15:30～記者会見(空港内)
3日目	8/6 (土)	墓参 ほか	沖縄戦跡巡り ひめゆりの塔 ほか	(午前)坂本乙吉 (午後)合志進 父親墓参及び親族対面 夕刻～熊本ダバオ会交流会
4日目	8/7 (日)	伊是名島09:00→ 運天港09:55→(バスにて) 沖縄都ホテル	休養	観光
		13:00～17:00交流会 沖縄都ホテル<<虹雲>> ※写真展併催		
5日目	8/8 (月)	09:50那覇空港発→→ <JAL902便> 12:15羽田空港着		10:50熊本空港発→→ <ANA644便> 12:30羽田空港着
		16:00 日本財団 表敬訪問		
6日目	8/9 (火)	10:30～さくら共同法律事務所にて 家裁出廷準備		
		13:00～家裁 調査官面接		
		16:00～フィリピン残留日本人問題等議員連盟表敬訪問予定		
7日目	8/10 (水)	10:00 外務省訪問		
		10:45 厚労省訪問		
		都内観光→→空港へ		
		18:30成田空港発 デルタ航空DL173便→→ 21:55マニラ空港着		

帰国者	①父の氏名 ②家庭裁判所への就 籍許可申立日 ③兄弟姉妹数	父の 出身	性 別	年 齢	出 生 年 月 日	プロフィール
 アラカキ イノセンシア (日本名: ユニコ/ヨ ネコ)	①アラカキ ヒロシ ②2007年11月8日 ③なし	沖 縄	女	66	1945年 2月23日	父アラカキヒロシはダバオ市トリルでアバカの栽培に従事したの ち、のちにトゥバンでココナッツ精油の仕事をしていた。1943年10 月14日に、友人(ワタナベ、カマシキ、オナガ)の紹介で知り合っ たフィリピン人女性でバゴボ族のロシータ マヌエルとバゴボ族 の方式で結婚。戦中で母が妊娠中、一家はダバオデルスル州パ ダダへ移住。そこで父はフィリピン人ゲリラに捕まり拷問をうけて 死亡し、本人は父の顔を見ることなく育った。戦後日本へ引き揚 げた父のいとこの子ども「ウイチ ミノル」から父の写真を受け 取っている。
	付き添い ジョナリー M. アグラン (息子)	帰国者の現住所 ダバオデルスル州 サンタクルス町				
 奥間 パシータ	①奥間 萬蔵 ②申立予定 ※伊是名島在住の父 親と対面予定 ③1(第1子)	沖 縄	女	69	1941年 11月30日	父はネグロスオキシデンタル州サンカルロス市で漁業に従事し たオコマンジョ。シバワイ島出身のフィリピン人女性のアナタ リア サルドアとサンカルロス市のボロメオ教会で結婚。その後父 は服地や食料品を販売する仕事を始めた。1941年に本人、1942 年に弟が産まれた。戦中父は日本軍に従軍し、戦後日本へ強制 送還された。本人が16才頃に日本に住む父から手紙を受け取 り、父が日本で新しい家庭を持ったことを知る。調査の結果、父の 生存を確認。本人は父との面会を希望している。
	付き添い ジュディス マダヤ ア ヴィレス(娘)	帰国者の現住所 ネグロスオキシデンタル州 サンカルロス市				
 トヤマ カルメリータ (日本名: ヤイコ)	①トヤマ ヒロシ ②2010年4月30日 ③1(第1子)	沖 縄	女	68	1943年 2月14日	父はミンダナオ島のピンダサンにあった「フルカワ」という会社で アバカ栽培に従事していたトヤマ ヒロシ。ピンダサンのレストラ ンで働いていた母ビクトリアナ ラスクニヤと出会い、当時ピンダ サンにあった日本の神社で結婚式を挙げた。戦中、父は日本軍 に従軍しながら家族と共に生活し、2人の子どもをもうけた。戦争 が激しくなり、家族全員でコタバト州ピキットの母の親戚のもとへ 避難したが、そこで父は「戻ってくるかもしれないから40年間は 結婚しないように」と言い残し、行方不明になった。
	付き添い カロリーナ P. コマ(娘)	帰国者の現住所 ダバオ市トリル地区				
 合志 ラモナ (日本名: マサコ)	①合志 進 ②2009年12月25日 ※熊本県大津町にて父 の墓参りの予定 ③なし	熊 本	女	67	1943年 11月13日	父はダバオ市トリル、トンカラで大工業や農業に従事したグン (※本人申告による)。父の弟「サイチ」とおじ「タマシロ」とともに 渡比。母から父の出身地は「クモト」と聞いていた当時トンカラ ンでは新規入植した日本人とバゴボ族の間に軋轢があったが、 父とバゴボ族の母アロン カワヤンが1941年9月20日に結婚し たことにより関係が良くなった。結婚式は日本の方式とバゴボ族 の方式の両方で執り行われ、父の友人のスガイ、タナカ、アカホシら が出席した。戦中、父は日本軍の手伝いをしていて、アメリカ軍 の飛行機から撒かれた投降を呼びかけるチラシを見て降伏を決 意。「無事に日本へ戻ったら手紙を書く」という言葉を残し別れた ままとなった。本人は父の名をグンとと思っていたが、当所の調査 の結果、合志進(1945年6月ダバオ市タモガンで戦死)と判明。
	付き添い ジョセフィン T. ビオ(娘)	帰国者の現住所 ダバオデルスル州 サンタクルス町				
 坂本 レオナルド (日本名: タカル)	①坂本 乙吉 ②申立予定 ※熊本県西原村にて父 の墓参りの予定 ③なし	熊 本	男	67	1944年 1月15日	父はダバオ市にあった雑貨店「フカミストア」店員の坂本乙吉。雑 貨店の2階にあった、日本人の経営する「アポスタジオ(写真 館)」で働いていた母チュオドラ サヨンと出会う。1943年頃から 両親は同棲を始めるが、戦中であつたため結婚式はできなかつ た。父は日本軍とともに行動するようになり、家族は他の日本兵 と共に母の姉の家があるダバオ市のルアック山で過ごした。その 後軍隊と家族のもとを行き来していたが、本人が産まれてから約 3ヶ月後に行方不明となる。当所の調査の結果、父は1945年5月 25日にダバオ市トリポリで戦死していた。
	付き添い ライアン C. リムサン(息 子)	帰国者の現住所 ダバオデルスル州 ニューコレリヤ町				
 クロサワ ホセ	①クロサワ ヤシド ②調査中 ③6(第4子)	福 島	男	81	1929年 12月28日	父は北サマール州ラビサレス町で農業、大工業に従事したクロ サワヤシド。ラビサレス町で母レオンシア ハタツと結婚。その 後7人の子どもをもうけた。父は戦中フィリピン警察に拘束され たが、日本軍がフィリピンに到着したのちは日本軍とともに行動。日 本軍に連行された近所の人がブッコの日本軍キャンプで目撃し たのを最後に、消息をたつた。
	付き添い エメリー イマタ(娘)	帰国者の現住所 北サマール州ラビサレス町				
 マツナガ フィレモン	①マツナガ ヒルヒジ ②申立予定 ③なし	不 明	男	73	1937年 11月22日	父はセブ市の「京都バザール」で貿易の仕事をしていたマツナガ ヒルヒジ。同じく京都バザールで料理を作っていた母エネスタ サ ルドウアと出会う。本人は母と共にダラゲテ町の母の実家で暮ら した。1940年頃に戦争が始まるという話が広まり、父は他の日本 人と共に日本へ帰国。本人は父の写真を持っている。
	付き添い マリア ガーデニア ジン キー サルデュア(娘)	帰国者の現住所 セブ州ダラゲテ町				